

# 私にも 言わせて! 第65回

## 神戸の歴史を紐解き、 結核予防対策と街の未来を思う



神戸市保健福祉局保健所  
予防衛生課  
灘区保健福祉部健康福祉課

横山 真一

兵庫県出身。平成23年京都大学医学部卒業。初期研修終了後、呼吸器内科医師として病院勤務。26年より現職。

臨床経験が短い状態で行政に飛び込み、公衆衛生歴もまだ3年の私です。このような場を設けていただきたいへん恐縮です。神戸は私の生まれ育った地でもあるのですが、その歴史や特徴に関しては行政に来るまで無関心でした。過去と地域を知ることが、未来と世界をよくすると考え、日々勉強しています。

### 神戸ユング

神戸は港とともに発展してきました。奈良時代に行基が港を整備し、貿易を重んじた平清盛が平安時代に福原遷都を計画しました。遷都の夢は半年ほどで終わりますが、その後も国内の重要な港であり続けたようです。そして慶応3年の開港を機に、神戸は急速に発展します。港町は人がにぎわい、工場が立ち並び、船は多くの物と文化を運んできました。

そんな中、市民は疫病にたいへん苦しめられていたようです。コレラ、赤痢、痘瘡、ペスト、食中毒等が相次ぎ、当時から公衆衛生の重要性を実感

今年度より区役所兼務となり、中学生に対する性教育や区民に対する健康講座、医師会や消防等の連携にも関与するようになりました。プロジェクトを用いて大勢の人の前で話すことが増えたのですが、若輩の私の話を非常に真剣に聴いてくださいます。公衆衛生は市民の方々にとって、想像以上になじみのない分野のようで、まだまだ広報が不十分なのだと感じました。未来を担う生徒が性に関する正しい知識をもつよ

図 神戸市保健所 結核予防の啓発ポスター



担当者は日夜奮闘し続けていました。また、昭和の大水害で土砂に埋もれ、戦時下の空襲で空から焼かれ、そして平成の大震災では足元から砕かれと、何度も壊滅的な被害を受けましたが、そのたびに強く立ち上がってきました。

### 初めてだらけの役所勤め

呼吸器内科医として働いていた私が、身内の死がきっかけで少し地元に戻ろうと考えた折、神戸市保健所の求人を見つけました。実際にお話を聴く中で、呼吸器内科の先輩が結核対策に心血を注いでいることを知りました。私も短い臨床期間ながら結核を診ていたの

うになれば、性感染症の蔓延や予期せぬ妊娠に伴う人工妊娠中絶、虐待を防ぐことができます。医療関係者はもちろん、市民へも感染症の情報を発信し続ければ感染の予防や早期受診・早期診断につながります。公衆衛生の情報をわかりやすく、正確に提供することが地域の健康の底上げに必須なのだと考え、正確な情報の取得・わかりやすい講演資料の作成を心がけています。

結核についても新たにポスターやチラシ、そして動画を用いて啓発を強化しています。一例として、図のポスターは診療所でも貼りやすいようA3サイズで作成し、医療機関に配布しました。アンケート調査では23%の方が見たことがあると回答し、それなりの広報効果があつたのではと考えています。

### 地域の歴史を知り、未来を模索する

結核が多いというお話をしましたが、なぜ多いのかと考えるようになりまし。得られた罹患率で最も古いものが昭和38年で、10万人対825・1と都道府県・指定都

で興味を覚え、また、予防医学の重要性も常々感じていたので、少し臨床を離れるのもおもしろいと考えました。神戸市に就職すると、私はその先輩の下、市役所の結核の部署に配属されました。小学生のころにどこにつながっているのだろうと思っていた職員通用口は、あたりまえですが市役所の中につながっていました。

神戸市の結核罹患率は年々下がっているものの、全国よりも高値で推移し、指定都市のワースト5に入ります。年齢階級ごとに比較すると70歳以上の罹患率が全国よりも著しく高く、地域で見ると、神戸港を囲む中央区・兵庫区・長田区で特に多いという特徴があります。

市役所で行う結核対策は診療とは別世界でした。感染症法を中心とした法律の理解、サーベイランス入力、書類作成、会議進行、市で最大でした。死亡率は戦後激減していますが、罹患率も経年的に減り続けていることを考えると、神戸市の昭和前半の罹患率は1000を超えていた、つまり毎年100人に1人が新たに発病していたと推察できます。その当時に感染した方が多いために、現在の神戸市の70歳以上の罹患率が高いのだと思われれます。

また、神戸市が誕生したのは明治22年ですが、当時の神戸市は今の中央区・兵庫区を中心とした狭い範囲を指しました。港町として古くから栄えていた地域では、結核がいまも多いという仮説は乱暴かもしれませんが、神戸市の罹患率の高さには港町としての歴史が少なからず関与していると考えています。行政には統計や歴史の莫大な情報眠っており、これは私にとつて宝の山です。

いまは目の前にある結核の課題の解決に向けて動いています。もつと深く深い視点で公衆衛生を理解していかなければと最近思い始めています。街づくりのレベルで健康環境を整備し、産学官でwin-winの関係構築し、普通に

ティッシュ配りやポスター掲出、さまざまな業務を次々と経験しました。私は医師なのだろうか、と内心思っていた時期もありました。右も左もわからずにいた私ですが、前述の上司や歳の近い医師、私と同年代の子どものいる先生や保健所長、多くの職員の方に指導と激励をいただきました。そんな日々が私に結核行政の知識と経験を与えてくれたこと、私が命じられていたのは雑務ではなく大切な公務だったことを理解するのに1年ほどかかりました。徐々に区役所の担当者も私を頼りにしてくれるようになり、市内医療機関との連絡会や医師や薬剤師向けの研修会で講演することも増えてきました。

石の上にも3年といいますが、私の足もとは少し温かくなっています。暮らしているだけで健康になる街をつくっていかなければなりません。パンやお菓子の街なので糖分・塩分控えめの商品を普及させる、健診・精検受診や公共交通機関・駐輪所・体育館利用での健康ポイント付与、坂の多さを活かした遊歩道整備、環境負担軽減と混雑緩和の効果も見込める自転車コース等、いまの職責を超えるものですが、色々想像を膨らませています。許しが得られれば、社会医学系専門医の基本プログラムや保健医療科学院の研修等に参加し、幅広く深い知識を身に付け、公衆衛生の柱となれるよう精進したいと思います。

### おわりに代えて

近ごろは、市役所から区役所へ頻繁に移動するようになりました。市役所のある中心部から東に進むと車窓から六甲山脈がよく見え、西に赴けば瀬戸内海が眼下に広がります。北に上るとのどかな里山があり、南に下ると人工島のポトアイランドに渡れます。地域のよさや特徴を日々発見しながら職務に当たっている今日このごろです。